育成会総会決定事項

報告

一月二十七日　宮城県教育行政講座
左記の通決定致しましたので報告致します

議題　極東ジャンボリー参加の件（第三回県ジャンボリー）

一、名称　極東ジャンボリー
一、日時　昭和三十七年八月二日　八月七日
　　至同
一、場所　静岡県御殿場市富士原
　　東富士演習場地区
　　国立中央青年の家西北
一、参加費　一人　八千五〇〇円也
一、参加資格　二級スカウト以上
　　右の参加に関し、諸経費について協議の決定
一、参加登録費　はその頃（五月頃）に一時徴とする
一、その他の経費は　キャンプ積立金にてまかない、不足分は増加する。
一、参加に必要な天幕購入は早急に調査しないので後来の資材費を一〇〇とする　ことに決定致しました。

三月	三七年度行事計画大会
三月	日ロ会
	後援会、年幹訓練
四月	各部長は特別訓練
	研究会　指導講
五月	全国総会（三、三）交換
	各種実修所
八月	ギルエル　六日～三六日
	二日～九日
	○ボーイジャンボリー　二日～七日
	○年長スカウト水上訓練（神戸）　十五日～二十日
	○青年スカウト集会
	ジャンボリー引続き
	○イギリス国際キャンプ
	○スコットランド国際班長集会
十月	極東会議　於タイ国
	自治ジャンボリー
	各駅事務局長会議
十二月	報恩講
	その他、東部、地区
	国等は月別に詳報致します。
	注

新入隊スカウト

百二三日富士入隊すく
スカウト
カブ進級（大蛇）　萩野
野村、西川、北井、原
鍋　秋野の七名の諸君
新入隊
中島、山本、の二名の
計九名です。

年少幹部会議決定集会日

本月廿七　健康と衛生

ワシ班	日	時	種別
	八日	14-16	班訓練
	十日	同	同
	十七日	14-16.30	班会議
	十八日		ハイキング
	二四日	15-17	班訓練
	二五日		隊訓練
ライオン班	十日	15-17	班訓練
	十七日	14-17	同
	二四日	15-17	同　並会議
	二五日		隊訓練
一イ班	十七日	班-17	班訓練
	十八日		テストハイク

栄栄　新入隊スカウト諸君を歓迎する!!

一イ班（続）	二四日	14-17　班訓練
	二五日	隊訓練
ツバメ班	四日	9-12　班訓練
	十日	14-16.5　同
	十八日	9-16　ハイキング
	二四日	15-18　会議
	二五日	隊訓練
年少幹部	十一日	
グリンバー訓練		

二級進級者
則内君、寺島君
浪野合格者
則内、寺島、小林
灯　堀田、高橋、水野、塩口
三宅　永吉、中島、岡村の諸君
○は教官書類であつた。

二月にボーイスカウト創始者ベーデンポーエル卿の亡くなつた月でこの月は恒例のBP祭が行はれます
本月の訓練テーマは健康と衛生　このテーマに基いて訓練が行はれ、それに関する技能の訓練が行はれます
　　切開八月のジャンボリーに備へて永続的に実施されます

○本月より出来る限り頻繁連絡を図り、べんりを出す事に致しました。
○ラジオ　テレビの様な一方通行にならぬよう御意見でも、何でも御連絡下さい
○遅々内容を異にしにくいと思ひます。
○一面はスカウト教育に関する事や連盟のことどもを二面は団の詳報に致します。

だんだん

スカウティング　夜話

スカウト教育の顕著な特色とする所は、訓練の項目ではなくて、その方法である。

善悪者であるベーデンポーエルは、自然が人間にあたへた社会生活の絶対なるもの、南国のズルー族民、インディアンの生活、これ等の少年の教育から　道徳や教儀を外から教へるのと全く異つて居るが方法を見、人心の生活の本能に深く鍬を入れて耕作し、教る后に、教の種子を播かなければ従来の知的教育では　努力しなくては吸収を得られぬ事を発見したのである。

人間の基本的生活　即彼等の生活の標準は、常に個で無く全体である。文化は求むる可き無ければ訓練された集団があり、社会性がある。常に彼を維持遂行する集団であり

よきにあれ、あしきにあれ、共同の生活に直接影響を持つとの観念に生きている。

一人の行為の結果は

純なる社会生活である　自己信頼の努力　没我の共同　善長あり、長老あり　信仰がある。原始生活にその頂を発見し　社会性の本能を見極め、こゝに生活教育の根底を置いた　これを人格の育手とし、勇気　精力　愛恐　創作　快活　明朗等の要性、天禀の技能を練磨し　これを現代生活に結付けたもので　精神文化と物質文化の調和に自力更生を計つた　忠用　底根心は自治と自力更生の心である。

社会生活の基準は個で無く全体だといい事である　これを自発的に行うのが自治の訓練になる

私達素人には理解即上の原則は分りないと同様にスカウト訓練に対して大心の関心がなく教育の手を加へたことに注意するものは少ない。

警視を武士道の復興と謳ひしたりする　時代が消失去つたものを復興仕様とするのではない　時代の要求する社会生活は　この精神を基礎として造られる事を実証したに過ぎぬ。

スカウト訓練は　よき公民の訓練といつて、それを満足するものではない　少年を社会の仕事に参画し　適切適所の立場を得させる為である。

各人はあくまで　社会生活に適当な立場を得る事を要求し、これを善用し、他人や　口家の聖前になつた様に己の立場を確保するのだといつたことである。

スカウトは　一班といつて一つの仲間の間に適当な位置を得て　お互の社会生活の向上の為　何事を共にし　それにつとめ、努力する

人類のみに霊にあたへられた理性、霊性は多理であるが　これを師性とすれば　師性は環境に広じ、事物に接し、行為に表れる。行為は師性に変化をあたへ交互に連続変化し遂に意志が習慣的活動をなすに至つて人格が出来る。

スカウト教育が手を加へ様とするのは、その行為である故に人格は習慣的意志活動さ　あれこれは　思想、感情、制御、外面的状の習慣等が　その仲間なる行為さえ習慣の心　性は必ずのは思い。人格を形成する各分野に習慣が働いている。これを取扱つのが　スカウトの実行の教育である。スカウト訓練である。

この実行の教育を生活の教育に具体化し成功したのがスカウト教育である。

即ち　スカウト教育は……

各国人人に
一、人格と訓練を培養する
一、各個的制御　自制　自己信頼を敬仰する
一、名誉観念を以て　義務、奉仕　責任を実用し　目の観察、推理の能力を訓練する
　　愛育の任務は民さ人格形成への基礎であり　この基礎を得目的技能と善行との訓練を得始めて人間は真底から向上公民となれる

ボーイスカウト創始者　ベーデン・ポーエル　の言葉

少年には　単に
「どうして生活を楽むべきか」を教へるのではなく
「如何に生活すべきか」人生で　あるが」といい事を教へるものである。

教員は訓練これに教育家になることを期待されて居ゆめ　自己の少年時代の記憶を通して得る少年の心理を究極まで信用、以て親密ある人となるのである。

その受持の少年の素直さ　必要は知識への欲求　を植えつけ得る能力のあることである　教育すれば団体として見け入れるが　はりに　各個人の自己教育を親心に助長することである印象を受け入れる事より本自己表現によつて学ぶのである。